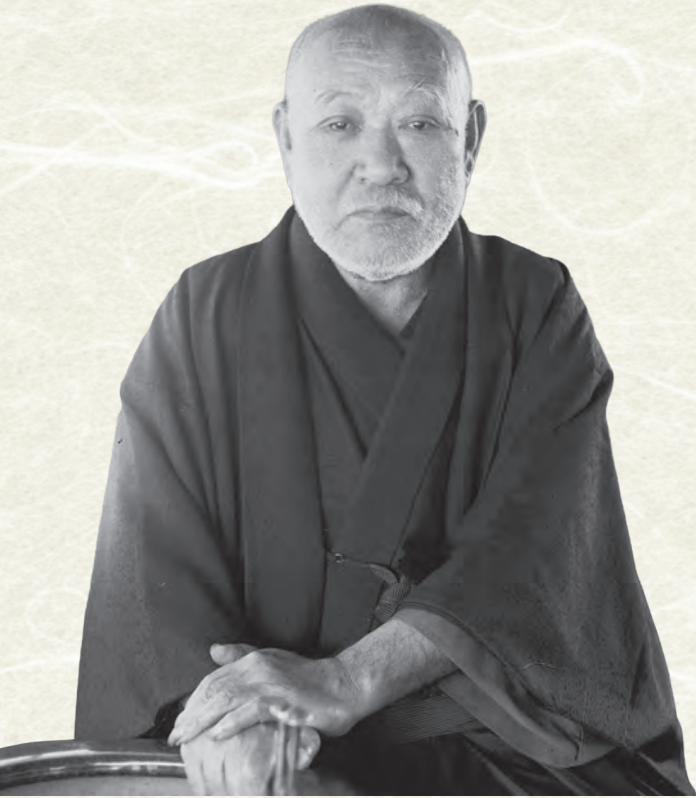


## 木村武山

生誕 150 年



木村武山  
茨城県天心記念五浦美術館提供

明治から昭和にかけて活躍した日本画家・木村武山は、近代日本画の発展に大きく貢献した人物です。笠間に生まれ、幼い頃から絵の才能を発揮した木村武山は、のちに東京美術学校（現在の東京藝術大学）で学びを深め、岡倉天心おかくらてんしんに従って横山大観よこやまたいかんらとともに日本美術院の創設に参加し、日本画の新たな時代を切り拓く一人として活躍しました。

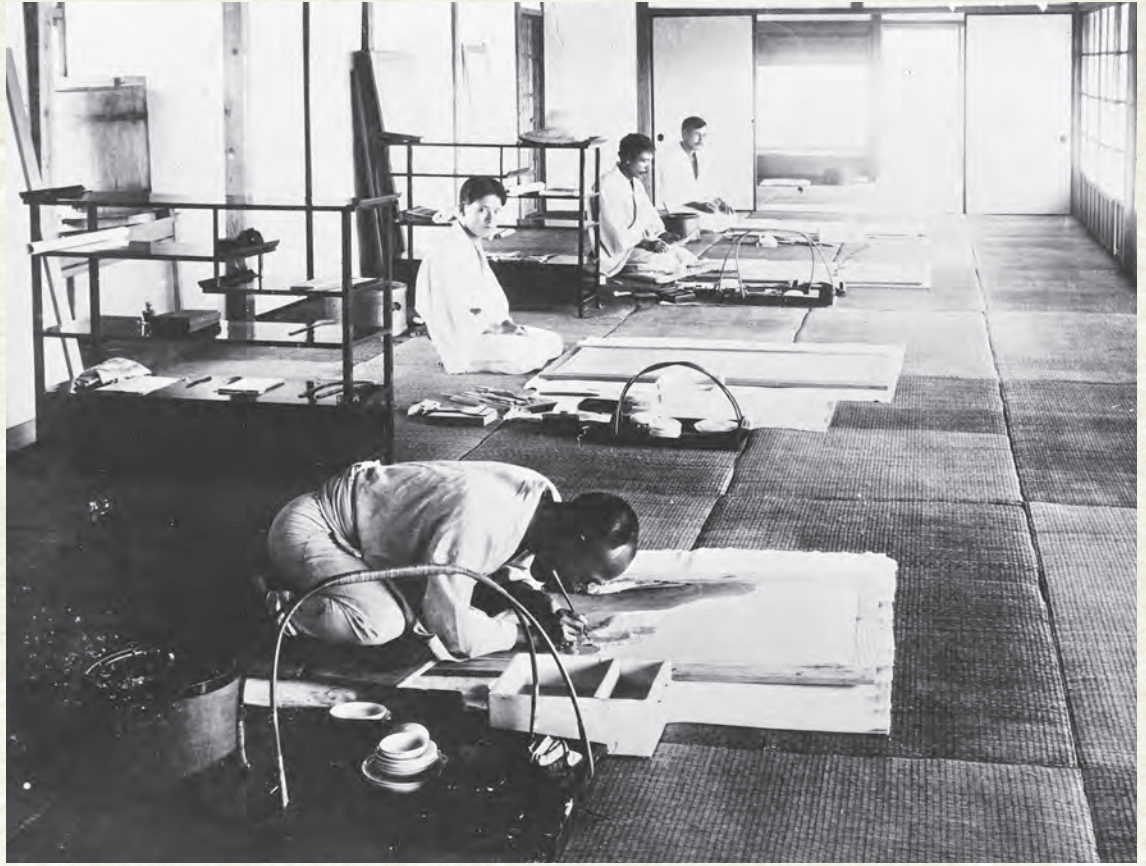
晩年には、病により、利き手である右手の自由を失いながらも、制作への情熱を失うことなく、「左武山」として左手で筆を執り描き続けました。ひたむきな姿勢と芸術への深い探究心は、今も多くの人々に感銘を与えています。

生誕 150 年の節目を迎えた今、武山の歩みや代表作を紹介しながら、その人物像と芸術の世界に迫ります。

## 年表

和暦(西暦)	満年齢	事項
明治 9 年 (1876)	0	7 月 13 日 旧笠間藩士木村信義・しゆん(しむ)の長男として、西茨城郡北山内村大字箱田(笠間市箱田)に生まれる。本名信太郎
明治 11 年 (1878)	2	この頃 南画家桜井華陵に絵を学ぶ
明治 21 年 (1888)	12	この頃 既に「武山」の号を用いる
明治 24 年 (1891)	15	東京美術学校に入学する
明治 29 年 (1896)	20	東京美術学校を卒業、卒業制作として「高倉帝殿島行幸」を提出する
明治 30 年 (1897)	21	平泉中尊寺金色堂の修復にあたる
明治 31 年 (1898)	22	東京美術学校日本画研究科を修了する
明治 39 年 (1906)	30	横山大観、下村観山、菱田春草とともに五浦に移住する
明治 40 年 (1907)	31	第 1 回文部省美術展覧会に「阿房劫火」(三等賞)を出品する
大正元年 (1912)	36	五浦から上京、東京市下谷区根岸町(東京都台東区根岸)に転居する
大正 3 年 (1914)	38	日本美術院が再興され、同人並びに経営者兼評議員となる
昭和 6 年 (1931)	55	高野山金剛峯寺金堂の壁画制作に着手する
昭和 7 年 (1932)	56	郷里箱田の邸内に大日堂建立を発願する
昭和 9 年 (1934)	58	高野山金堂壁画「成道の図」を完成
昭和 10 年 (1935)	59	笠間に大日堂が完成し、落慶式を挙げる
昭和 12 年 (1937)	61	脳溢血で倒れ、笠間で静養する
昭和 13 年 (1938)	62	旧年の病のため右手の自由を失い、春頃より左手で絵筆を執り、「左武山」の異名をとる
昭和 14 年 (1939)	63	笠間月崇寺の本堂と庫裡の改修工事にあたり、本堂内陣の壁画「天女図」をはじめ、格天井、須弥壇、杉戸の障壁画を描く
昭和 17 年 (1942)	66	11 月 29 日 喘息のため没。法名は泰靈院映誉広彩武山居士 墓は木村家の菩提寺・月崇寺に建立されるほか、自邸内の大日堂に分骨される

# 武山を知る



五浦（北茨城市）の日本美術院研究所での制作風景  
（写真手前から 木村武山、菱田春草、横山大観、下村観山）  
茨城県天心記念五浦美術館提供

## ■ 笠間と木村家

武山は明治 9（1876）年 7 月、旧笠間藩士である父・木村信義と母・しゆん（しむ）の長男として、西茨城郡北山内村大字箱田（現在の笠間市箱田）に生まれました。本名は信太郎。父・信義は、近代笠間の経済と産業に尽くした実業家で、笠間銀行の頭取や笠間電気株式会社の社長を務めたことから「笠間の渋沢栄一」ともいわれました。

武山は、幼い頃から絵を描くことが好きで、その才能を見抜いた父・信義は、南画家 桜井華陵を 2 歳の頃に自宅に迎え、絵を習わせました。

## ■ 岡倉天心のもとで

武山は明治 24（1891）年に東京美術学校に入学し、当時、東京美術学校の校長で、日本の美術を守りながらも新しい時代にふさわしい日本画を制作するために活動していた岡倉天心から薫陶を受けます。

明治 31（1898）年に天心は、横山大観や菱田春草、下村観山らとともに日本美術院を創設。武山も創設当初は副員として参加し、新しい時代の日本画を築くための活動に力を注ぎました。

当時の日本美術院の新たな表現は、大きな注目を集める一方で当時の美術界に必ずしも受け入れられたわけではありませんでした。輪郭線を目立たせず柔らかな色彩で表現する「朦朧体」や「没線描法」などの新しい画風は、大きな議論を呼び、厳しい批判にさらされることもありました。

その中でも武山は、「没線描法」を自分なりに消化し、立体感のある柔らかで臨場感のある表現を生み出していました。

明治 39（1906）年、天心は活動の拠点を北茨城市の五浦へ移します。太平洋を望む豊かな自然に囲まれた五浦には、日本美術院の画家たちが集い、新たな制作活動を展開しました。武山も一家をあげて拠点を五浦に移し、のちに数々の代表作が五浦で生み出されることとなりました。

## ■ 笠間に残る武山の作品

県内外の美術館などに所蔵されている武山の作品はごく一部で、多くは個人の所蔵であるとされています。

市内の笠間公民館や笠間稲荷神社、木村家の菩提寺である月崇寺などには、武山が手がけた作品が残されており、地域の貴重な文化財として大切に受け継がれています。こうした作品は、郷土が生んだ芸術家の功績を身近に感じられる存在となっています。

生誕 150 年の節目を迎えた今、改めて市内に残る作品やゆかりの地を訪れてみてはいかがでしょうか。作品に込められた想いや、武山が歩んだ人生をより身近に感じることができるかもしれません。

※月崇寺では一般公開は行っていません。



笠間公民館に展示されている  
木村武山の作品  
「神武天皇肖像（下図）」

# 武山を見る

武山は、近代日本画を代表する画家の一人として、歴史上の人物や出来事を題材とした「歴史画」、壮麗な作風で知られる「花鳥画」、そして晩年に力を注いだ「仏画」など、幅広い分野で優れた作品を残しました。

武山の多彩な作品の魅力に触れられる、優品を3点紹介します。

それぞれの作品には、時代背景や武山ならではの表現技法、作品に込められた想いが息づいています。また、作品の見どころやポイントは、茨城県天心記念五浦美術館学芸員・木澤沙羅さんによる解説です。専門的な視点からひもとく武山の世界をぜひお楽しみください。

## 花鳥画



ろうしょうに たか  
**老松二鷹**

大正10～11 (1921-22) 年頃  
個人蔵

繁栄を意味する松と勇猛な鷹は、おめでたい画題として組み合わせて描かれることが多くありました。この作品では、松の緑色に対比して真っ赤な鷹を描き、画面に華やかな彩りを与え、鷹の気高さをいっそう引き立たせています。武山は若い頃から色彩感覚を高く評価されており、この作品でも武山の優れた技量がうかがえます。

## 仏画



しょうかんのん  
**聖観音**

大正12～14 (1923-25) 年頃  
個人蔵

大正～昭和期の武山は「仏画の武山」と称され、多くの仏画を制作しました。十一面観音や千手観音などさまざまな観音菩薩のなかで、この作品に描かれる聖観音は、その基本となる姿であり、空から来迎する様子が色彩豊かに表されています。古典研究に基づきながらも、鮮やかな色彩や精緻な衣文の表現に、武山独自の工夫がみられます。



# 歴史画

あほうごうか  
阿房劫火

明治 40 (1907) 年  
茨城県近代美術館蔵

中国・秦の始皇帝が造営した阿房宮が項羽軍に焼き払われた際に、その炎が3か月の間燃え続けたという説話を描いています。この作品は五浦で制作され、文部省美術展覧会で三等賞を受賞し、武山の出世作となりました。師・天心はこの作品に対して「この絵にしてごうごうたる大音響が聞こえたなら天下の名作であるが」と批評したと伝わっています。

## 木村武山の足跡をたどる

### ■ 茨城県近代美術館

住 所：水戸市千波町東久保 666-1  
電 話：029-243-5111  
開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時  
※入館は午後 4 時 30 分まで  
休 館 日：月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日休館)・  
年末年始



詳しくはこちら



### ■ 茨城県天心記念五浦美術館

住 所：北茨城市大津町椿 2083  
電 話：0293-46-5311  
開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時  
※入館は午後 4 時 30 分まで  
休 館 日：月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日休館)・  
年末年始



詳しくはこちら



## 武山へのまなざし



茨城県天心記念  
五浦美術館

いずみ しげのり  
小泉 晋弥 館長

## 木村武山 — 愛すべき実力者

武山と親交した人々は、その人柄を驚くほどほめている。「非常に親切で世話好き」それも「親身も及ばぬ親切」。「怒ったのを見たことがない」が、ただのお人よしではなく、「非常に才気あり、機知縦横」で「考察力がすばらしく機敏」そのうえ「理知的」で「事務的才能」が鋭敏にはたらく。対談中は「ウィットに富んだ、しゃれた会話の連続」だという。欠点は、そのサービスが「度をすぎず」こと、画室を「実にきたなくよごす」ことくらいだ。武山は、五浦の4人の画家で最も多くの弟子を抱えた。それもこの性格によるだろう。

その明るさは画面では華麗な色彩として表れている。しかし、単に明るいだけではない。日露戦争当時、陸軍近衛連隊で軍務についていたことを軽く見るべきではない。明治末から傾倒しはじめた仏画には、戦死した多くの兵士への思いが込められていただろう。得意の花鳥画は、極楽浄土を表す鎮魂と平和への象徴と受け取りたい。武山のやさしさが表れていると思う。

# 武山を訪れる



## 武山ゆかりの大日堂

大正 12 (1923) 年に笠間に帰郷した武山は、日本美術院の中心として活躍する一方、多くの功績を残し、茨城県と郷土笠間の文化向上に寄与しました。

昭和 10 (1935) 年に自宅の敷地内に建立した大日堂には、自らが手掛けた仏画が数多く残されており、故郷への想いと長年培ってきた日本画家としての集大成の場所として、現在も大切に受け継がれています。

堂内には、大日如来を中心とした仏画が描かれ、壁面や柱、天井に至るまで、武山の筆による荘厳で繊細な作品をみることができます。

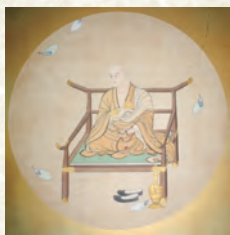
制作途中には、病に倒れながらも制作への情熱を失わず、身体の不自由を乗り越えて筆を執り続けた武山。大日堂には、そのためまぬ努力の跡が残されています。

令和 7 年 11 月 17 日には、大日堂が国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。堂内の公開(予約制)も行っていますので、この機会にぜひご覧ください。



天井画

中央には鷹と燕の図、その周囲には和楽器、散華の花びら、万華などが描かれています。格天井の 33 のマスのうち、4 つのマスは未完成で、四隅と同様の菩薩像が描かれる予定だったと考えられています。



弘法大師



大日如来



虚空蔵菩薩

正面壁面の大日如来は、1 年以上の歳月を費やして描いたとされています。その脇侍として、日光菩薩と月光菩薩が描かれています。また、壁面には弘法大師、虚空蔵菩薩が描かれています。



厨子

描かれる仏画は東京藝術大学が所蔵する浄瑠璃寺吉祥天厨子絵や阿弥陀来迎図の図像を忠実に模しています。正面左上部に取り付けられた黄金虫の彫刻は平櫛田中の作と伝えられています。

### 大日堂 公開概要

場 所	笠間市箱田 2210
公 開 日	毎月第 2、第 4 日曜日 (予約制)
公開時間	午前 9 時～午後 4 時
拝 観 料	大人 (大学生以上) 500 円 小人 (小学生以上高校生以下) 300 円
予約方法	生涯学習課窓口または電話・メール ※拝観希望日の 5 日前までにご予約ください。



詳しくはこちら

# 武山 生誕 150 年関連イベント

木村武山生誕 150 周年を記念し、今年は各地でさまざまな企画展や関連イベントが開催されます。作品鑑賞などを通して、武山について思いをはせることができる絶好の機会です。この節目の年に改めて武山の足跡をたどり、その魅力に触れてみませんか。

## 第 119 回 笠間の菊まつり

笠間稲荷神社では、武山の生涯をテーマにした「菊人形」を展示します。また、笠間稲荷美術館では、笠間の菊まつり開催期間中に合わせて、武山の作品を中心とした特別展の開催を予定しています。

日程 10月24日(土)～11月23日(月・祝)

場所 笠間稲荷神社(笠間市笠間1)ほか



笠間稲荷神社  
ホームページ

## 企画展示「墨画表現の世界にふれる」

武山の画業や作品への理解を深め、子どもたちの創造性を育むことを目的に開催する中学生向けの日本画(水墨画)のワークショップで制作された作品などの展示を予定しています。

日程 12月17日(木)～12月24日(木)

場所 茨城県陶芸美術館 県民ギャラリー(笠間市笠間2345)



茨城県陶芸美術館  
ホームページ

## 明治神宮外苑創建百年記念「聖徳記念絵画館の巨大壁画にせまる」

幕末明治の歴史を描いた絵画館の壁画をテーマに特別展を開催します。中期展「生誕 150 年の画家たち～展覧会を彩った名品とともに～」では、武山が描いた壁画《徳川邸行幸》とともに制作過程を記録した貴重資料や下図を展示します。

日程 中期展：10月17日(土)～11月8日(日)

場所 明治神宮ミュージアム(東京都渋谷区代々木神園町1-1)



明治神宮ミュージアム  
ホームページ

## 巨匠 木村武山の世界へ「笠間 × 明治神宮の旅」

市内外のより多くの方に武山や笠間の魅力を知っていただくための取り組みの一環として、秋には東京発着のバスツアーを予定しています。武山ゆかりの地や関連施設を巡りながら、笠間ならではのグルメや秋の風景も楽しめる内容となる予定です。詳細は決まり次第、笠間観光協会ホームページなどでお知らせします。

日程 11月7日(土)

場所 明治神宮、大日堂、笠間稲荷神社ほか



笠間観光協会  
ホームページ

※内容については発行時点の予定であり、変更となる場合があります。

## 本でたどる武山と笠間の先人たち

「かがやく笠間の先人たち(改訂版)」では、武山や父・信義をはじめ、笠間にゆかりのある先人たち 63 名の功績や生涯を紹介しています。

日本画の巨匠として活躍した武山の歩みはもちろん、地域や日本の発展に尽力した先人たちについて知ることができる一冊です。この機会に先人たちの功績やその想いに触れてみませんか。

生涯学習課などの窓口で販売しているほか、市内すべての図書館にも所蔵していますので、ぜひご覧ください。

【販売価格】 1,000 円

【販売箇所】 生涯学習課、かさま歴史交流館井筒屋(笠間市笠間987)

※詳しくは、生涯学習課にお問い合わせください。



問 生涯学習課(内線 381)

参考：茨城県五浦天心記念五浦美術館「生誕 150 年記念 木村武山展」(2026 年)  
笠間市教育委員会「かがやく笠間の先人たち(改訂版)」(2024 年)